

Attracting Tomorrow



TDK Today

株主通信 Vol.73

128期 通期

2023/4/1 ▶ 2024/3/31

特集

長期ビジョン

「TDK Transformation」とは？

TOPICS

- ・ 『CES2024』に出展。
イノベーションアワードを受賞
- ・ 自動車向け磁気センサ、
受動部品の生産体制を強化

証券コード

6762

株主の皆様へ

自動車市場向け販売の増加などにより 過去最高益を更新※

2024年3月期連結業績について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2024年3月期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の連結業績についてご報告申し上げます。

当期における世界経済は、北米で堅調に推移しているものの、欧州及び中国における経済減速に加え、中東地域を巡る情勢不安等の影響を受け、減速感が強まりました。また、為替レートは、対米ドル及び対ユーロを中心に円安傾向が継続しました。このような経営環境のもと、当社の連結業績に影響を与えるエレクトロニクス市場においては、長引く最終需要の低迷によるICT（情報通信技術）市場及びHDD（ハードディスクドライブ）市場の需要停滞に加え、産業機器市場において設備投資需要全般が低調に推移し、売上高は前期比3.5%の減収となりました。一方、主にxEV（電気自動車等）の生産台数増加による自動車市場向け製品の販売増加やICT市場向け小型二次電池の収益性向上により、営業利益は前期比2.4%の増益となり、過去最高益を更新しました。

次に、市場別の販売状況についてご説明します。自動車市場においては、xEV化やADAS（先進運転支援システム）化の進展により、受動部品やセンサの販売が拡大しました。ICT市場においては、スマートフォン向け等の小型二次電池の販売数量が増加しましたが、HDD市場の需要停滞によりHDDヘッドやサスペンションの販売が大幅に減少するとともに、小型二次電池の材料価格下落に伴う売価低下により減収となりました。また、需要が低調に推移した産業機器市場においては、受動部品やセンサの販売が大幅に減少しました。こうした経営環境の中、2024年3月期の連結業績は、右記の通りとなりました。

※営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

2024年3月期 連結業績概要

売上高	2兆1,039億円（前期比 3.5%減）
営業利益	1,729億円（同 2.4%増）
税引前利益	1,792億円（同 7.2%増）
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,247億円（同 9.2%増）

2025年3月期の売上見通しについて

2025年3月期の世界経済は、2024年3月期における経済減速からの回復が予想されるものの、そのスピードは緩やかであると予想しており、不透明な状況が続く見込みです。業績予想の前提となる市場背景と主要なデバイスの生産台数予想をもとに、2025年3月期のセグメント別の売上高増減イメージは右記の通り想定しています。

■ **受動部品**：MLCC（積層セラミックコンデンサ）等における売価下落及び産業機器市場向けの停滞はあるものの、xEV化の進展による販売増を見込み、セグメント全体では売上成長を予想しています。

■ **センサ応用製品**：自動車及びICT用途で好調なTMR（トンネル磁気抵抗効果）センサ、ホールセンサ等の磁気センサ、自動車向け温度・圧力センサ及びMEMS（微小電気機械システム）マイクロフォンの販売が増加する見込みです。

■ **磁気応用製品**：HDDの生産台数及びデータセンター向けニアライン用HDDの生産台数に底打ち感が見られ、売上げが見込まれるものの、マグネットの売上減少もあり、セグメント全体では微減となる見込みです。

■ **エネルギー応用製品**：スマートフォンやノートパソコン、タブレット等の需要に底打ち感が見られるものの、小型二次電池の材料価格下落に伴う売価低下による減収を予想しています。

2025年3月期の連結業績と配当の見通しについて

2025年3月期の連結業績と配当の見通しは右記の通りです。株主還元については、従来の配当性向30%の目標を引き上げ、配当性向35%を目途に行っていく予定です。2025年3月期の年間配当金額は前期比4円増配となる120円を予定しております。

当社は2024年5月に新中期経営計画を発表いたしました。本計画では、全社の目標財務指標として、新たにROICを採用し、投下資本の収益性向上を目指してまいります。また、目標実現のため、重点成長事業への積極投資の継続と課題事業への適切な施策の実行に

より、資本効率性の向上と資本コストをより強く意識した先手の事業ポートフォリオマネジメントを実行してまいります。詳細は特集ページ及び[ウェブサイト](#)をご覧ください。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長執行役員CEO 齋藤 昇

2025年3月期 セグメント別連結売上高増減イメージ

(億円)

セグメント区分	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期予想 (前期比)
受動部品	5,656	+4 ~ +7%
センサ応用製品	1,805	+8 ~ +11%
磁気応用製品	1,842	-2 ~ +1%
エネルギー応用製品	11,217	-4 ~ -1%
その他	518	-
合計	21,039	21,050

※2024年3月期第3四半期予想の前提には、第2四半期の為替実績から約14円の円高で見ていることから、セグメントごとに10%程度のマイナス影響が含まれています。

2025年3月期 連結業績及び1株当たり配当の見通し

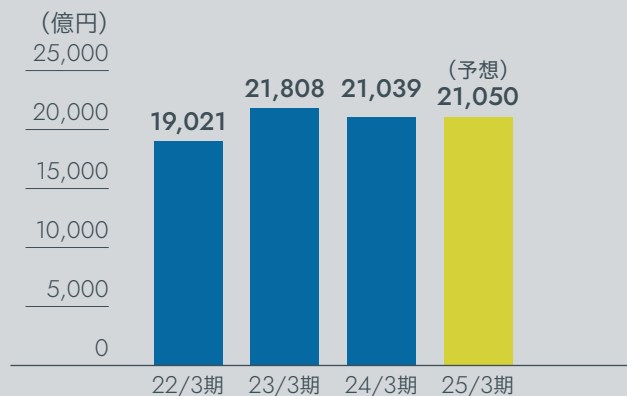
売上高	2兆1,050億円（前期比0.1%増）
営業利益	1,800億円（同4.1%増）
税引前利益	1,840億円（同2.7%増）
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,280億円（同2.7%増）

※通期の平均為替レートは対米ドル140円、対ユーロ156円を想定
(2024年4月26日発表)

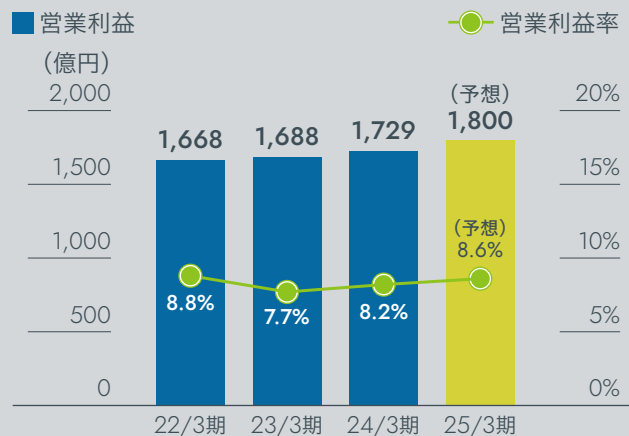
中間配当	(見通し) 60円（前期実績 58円）
期末配当	(見通し) 60円（同 58円）
年間配当	(見通し) 120円（同 116円）

業績ハイライト - 1 主要財務指標等の推移 (予想: 2024年4月26日発表)

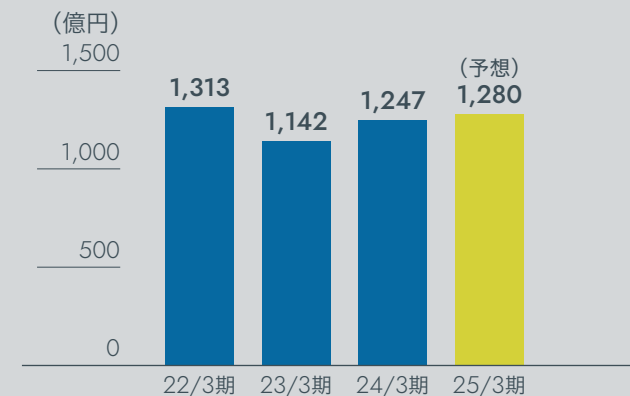
売上高



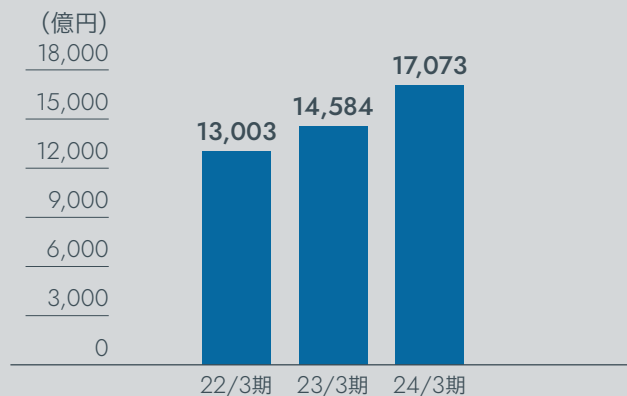
営業利益及び営業利益率



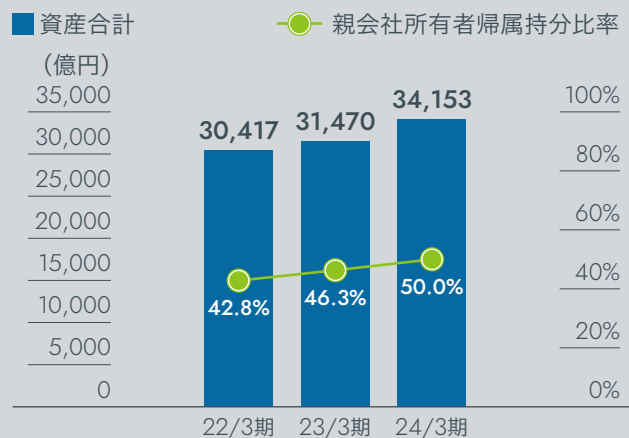
親会社の所有者に帰属する当期利益



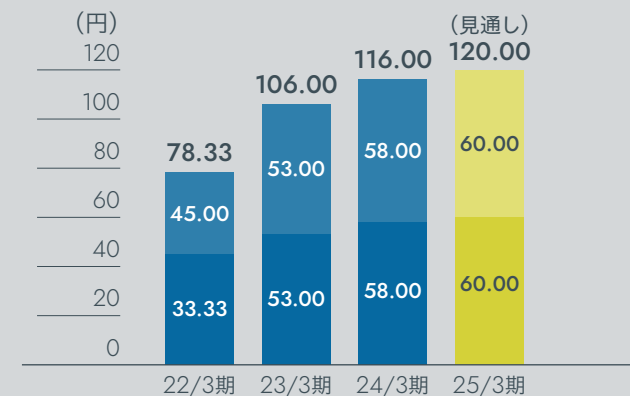
親会社の所有者に帰属する持分



資産合計/親会社所有者帰属持分比率

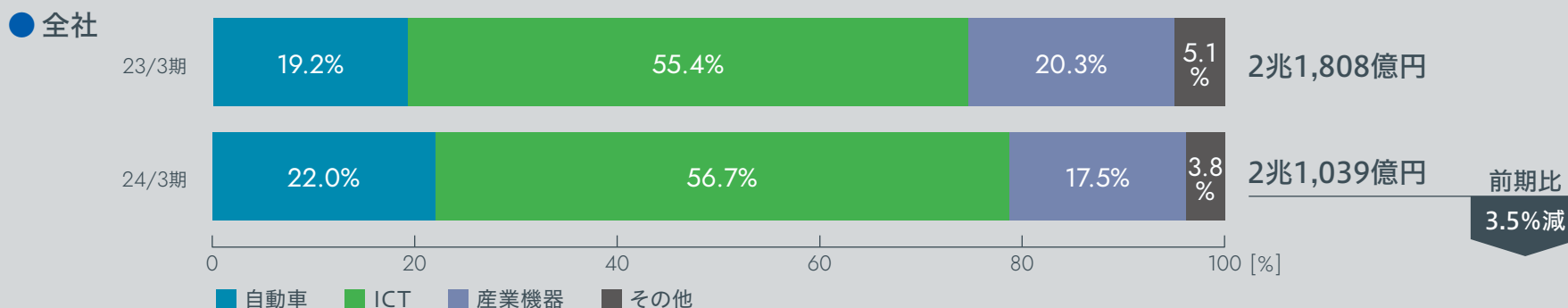


1株当たり配当金



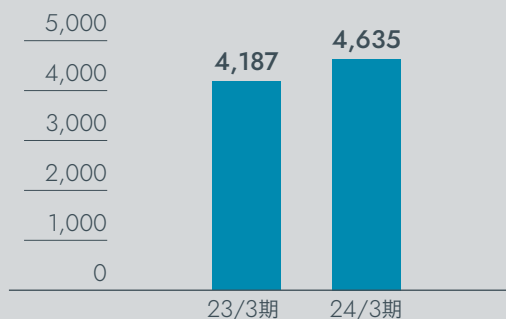
(注) 当社は、2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表から国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています

業績ハイライト - 2 重点分野別売上の状況 (2024年3月期)



自動車

10.7%増

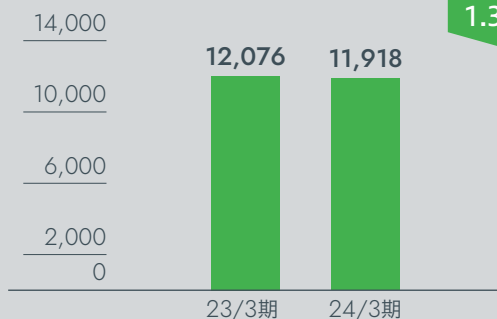


市場分野別ポイント

- xEV化、ADAS化の進展により、セラミックコンデンサ、インダクティブデバイス等の受動部品の販売が増加。
- 温度・圧力センサ、磁気センサのセンサ応用製品の販売も増加。

ICT

1.3%減

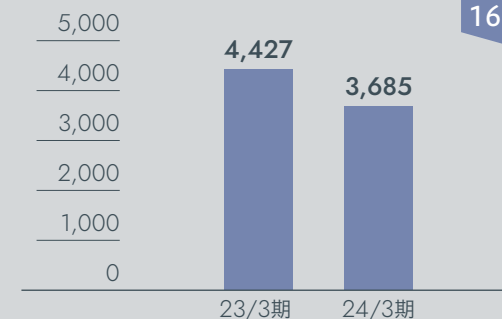


市場分野別ポイント

- 磁気センサのスマートフォン向け販売が増加。
- スマートフォン向け等小型二次電池の販売数量は増加したものの、材料価格下落に伴う売価下落等により販売が減少。
- HDD市場の停滞により、HDDヘッド及びHDD用サスペンションの販売が大幅減少。

産業機器

16.8%減

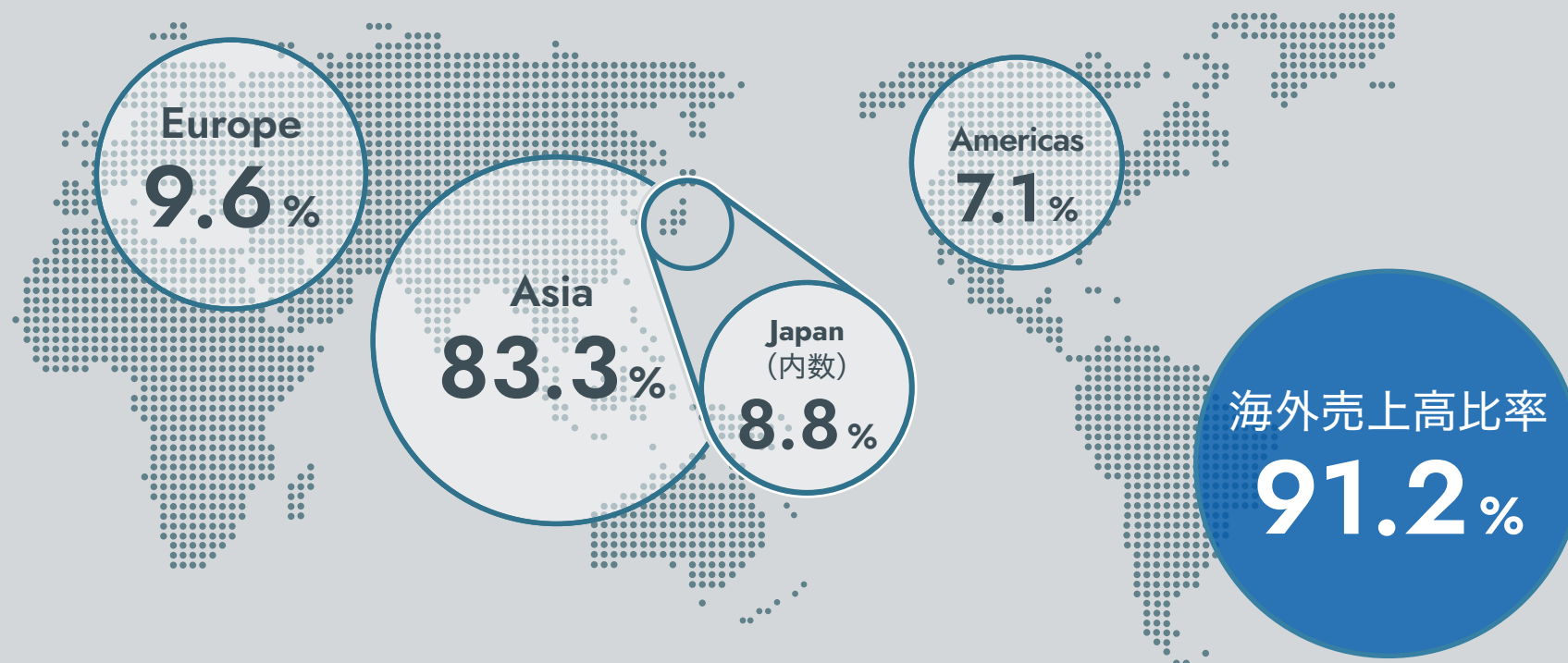


市場分野別ポイント

- 需要の低迷により、インダクティブデバイス等の受動部品の販売が減少。
- MEMSセンサ等のセンサ応用製品の販売も減少。
- 産業機器用電源は、半導体製造装置向けや医療用機器向け販売が増加。

業績ハイライト - 3 地域別売上高構成 (2024年3月期)

TDKグループはグローバルに事業を展開しており、海外売上高比率は90%を超えています。
また、地域別では、日本を含めたアジア地域が83.3%と、最も大きな割合を占めています。



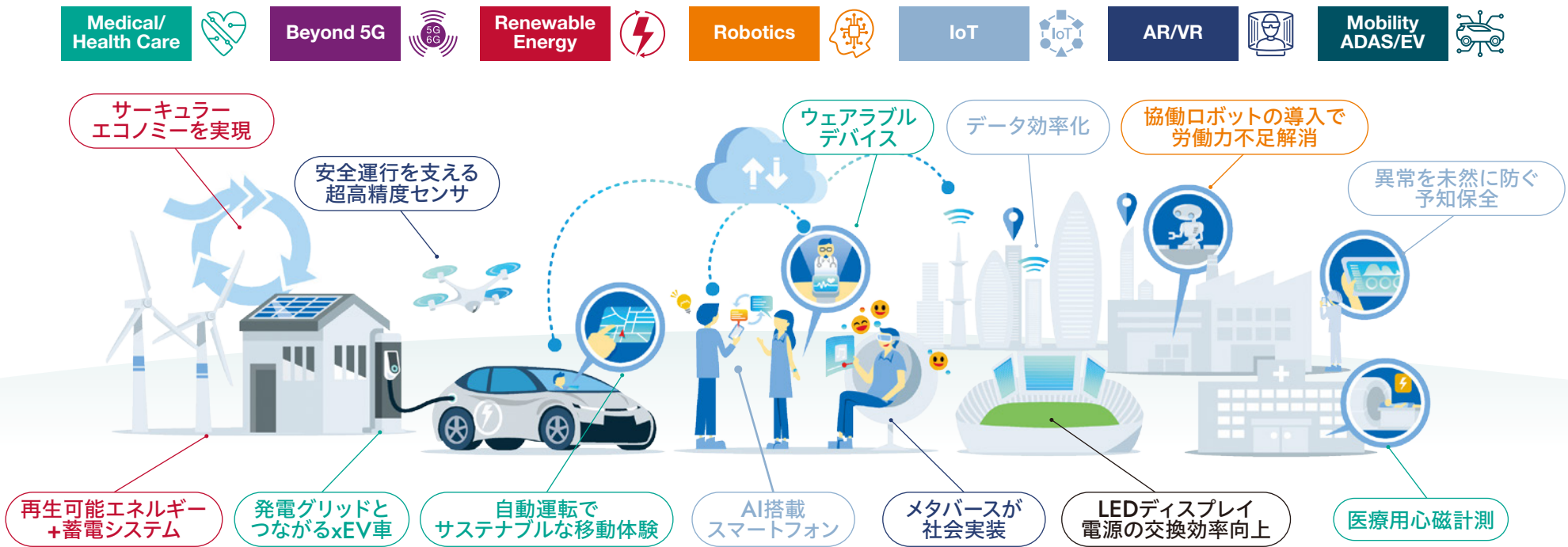
長期ビジョン 「TDK Transformation」とは？

TDKは2024年5月、社是「創造によって文化、産業に貢献する」と社訓「夢、勇気、信頼」のもとに、10年後の当社のありたい姿として、長期ビジョン「TDK Transformation」を定めました。このTransformationには、社会の変革への貢献とTDK自身が変革し続けるという2つの意味があり、この2つのサイクルを加速させていくことで、サステナブルな未来の実現に貢献するとの想いを込めています。

長期ビジョンの詳細は、[TDK Webサイト](#)でご覧いただけます。



社会のTransformationへの貢献 TDKは、テクノロジーの進化と社会の変革を加速し、サステナブルな未来の実現に貢献します



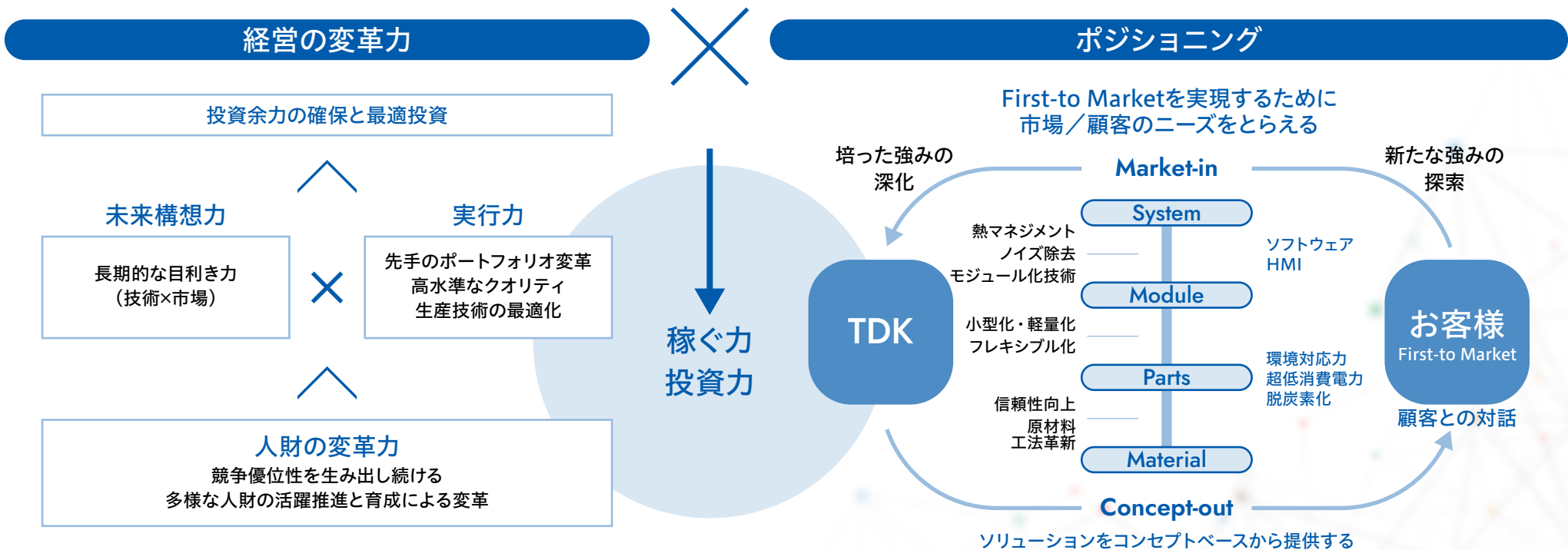
TDKのTransformationの加速 自己を変革し続け、世界のお客様とともに成長するNo.1パートナーになります。

TDKはこれまで自社の主力事業と経営資源による成長（オーガニック成長）と数多くのM&Aなどの両輪で事業ポートフォリオを入れ替えて成長を続けてきました。

多様な人財による変革力を基盤として、長期で社会・技術トレンドを見極める未来構想力と、構想した未来を実現する実行力との両輪により、将来への投資余力を確保し、最適な投資を実行することで経営の変革力を高めていきます。

また、Transformationが進む社会において、マーケット、お客様のニーズをいち早くとらえ、独自の材料からシステムまでの幅広いソリューションを提供する、このサイクルをより一層進化、加速し続け、サステナブルな社会の実現に貢献することで、当社のポジショニングの更なる向上を実現していきます。

これらの2つのドライバーを成長させていくことで、お客様のNo.1パートナーとしてサステナブルな社会の実現に貢献していきます。



ベンチャースピリット、権限委譲と透明性の確保、機能対等、買収先企業の尊重、グローバルで学び合う文化、トップダウンとボトムアップの融合

長期ビジョンの詳細は、[TDK Webサイト](#)でご覧いただけます。

新中期経営計画がスタート

TDKは、長期ビジョン「TDK Transformation」と共に3カ年の新中期経営計画を発表しました。この計画は長期ビジョンの実現に向けて、事業基盤を強化する期間と位置付けています。

新中期経営計画の主なポイント

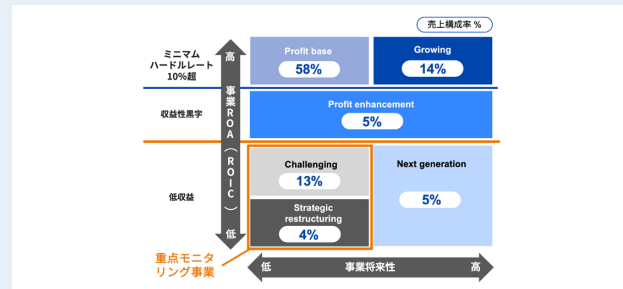
1 未財務資本の強化 (フェライトツリーの進化)

祖業であるフェライトの商業化以降、材料からプロセス、派生技術の開発やM&Aを通じて、技術の枝や葉の成長を促進してきたTDK。今後は根にあたる技術力や人的資本、組織力、顧客基盤といった、「未財務資本」の充実を図り、フェライトツリーをさらに大きく進化させていきます。



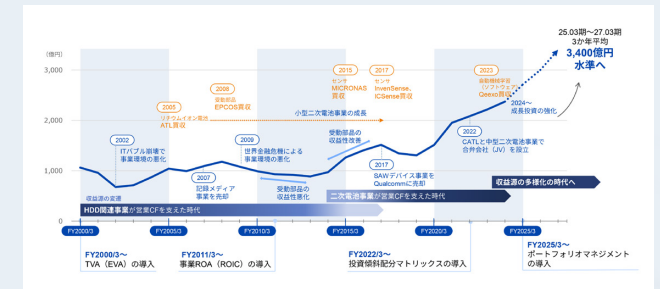
2 事業ポートフォリオマネジメントの強化(ROIC経営の強化)

事業ポートフォリオ基準を進化させ、事業ROA (ROIC) のミニマムハードルレート10%を下回る事業に対する施策を早急に講じるなど、先手のポートフォリオマネジメントを強化していきます。



3 キャッシュフロー経営の強化

オーガニック成長とM&Aの活用、先手の事業ポートフォリオ変革で「稼ぐ力」を高めていきます。過去、1,000億円レベルであった3か年移動平均の営業キャッシュフローを新中期経営計画期間では3,400億円水準を目指していきます。



財務・未財務KPI 上記3つの施策の実行を通じて、財務・未財務の各目標を上回る結果を目指していきます。

		2024年3月期(実績)	2027年3月期(目標)	
財務指標	成長性	売上高	2兆1,039億円	2兆5,000億円
	効率性	ROE	7.9%以上	10%以上
		事業 ROA (ROIC) (>WACC)	5.3% (<7.0%)	8%以上
		営業利益率	8.2%	11%以上
	財務健全性	株主資本比率	50%	50%水準
D/Eレシオ		0.4倍	0.3 ~ 0.4倍	
未財務指標	重要KPI (Key Performance Indicators : 重要評価指標)	TME (従業員エンゲージメント) コミュニケーションスコア	67pt	75pt以上
		TMEサーベイ参加率	80%	80%以上
		CO ₂ 排出量削減 (2022年3月期対比)	42.9%	23.3%

新中期経営計画の詳細は、[TDK Webサイト](#)でご覧いただけます。

Message

社会は今、もの凄いスピードで変化し続けています。その社会に対応し、貢献し続けるためには、私たち自身も変わり続けなければなりません。その思いから、長期ビジョンを「TDK Transformation」としました。私たちに約90年の歴史の中で築き上げてきた「材料技術」と「プロセス技術」があります。新中期経営計画からは「ソフトウェア技術」を新たに加え、電子デバイス領域での競争優位性を確立し、お客様のNo.1パートナーとしてサステナブルな社会の実現に貢献します。

代表取締役社長執行役員CEO 齋藤 昇

『CES2024』に出展。 イノベーションアワードを受賞



TDKは、2024年1月9日(火)から12日(金)まで米国・ラスベガスで開催された世界最大級の技術見本市「Consumer Electronics Show (CES) 2024」に出展いたしました。TDKブースでは、e-モビリティ、先進運転支援システム(ADAS)、ロボティクス、5G(第5世代移動通信システム)、機械学習(ML)、IoT(モノのインターネット)などのソリューション紹介から、センサ内蔵サッカーボール、ロボット芝刈り機、超音波ドアロックなどユニークなデモまで幅広い展示を行いました。また、TDKのグループ会社であるQeexoは、Doosan Roboticsとのロボット共同開発プロジェクトでCES 2024 Innovation Awardを受賞するなど、TDKの最新技術が多くのメディアから注目を集めました。

TDKグループのQeexoが CES 2024 Innovation Award[※]を受賞

TDKのグループ会社でエッジデバイス向け機械学習プラットフォームの開発を手掛けるQeexo(米国・カリフォルニア州)は、ロボティクス企業のDoosan Roboticsと共同で、機械学習を活用してリサイクルのための分別作業を高速で行うことができるロボットを開発。高度なソフトウェア性能が評価されました。



※ コンシューマー・テクノロジー製品の優れたデザインとエンジニアリングを表彰するCESのコンペティション

TDKとGoodyear、 インテリジェントタイヤ技術の開発で連携

CES2024の開催に合わせ、TDKは米タイヤメーカーのGoodyear社と、次世代のタイヤソリューションの開発に向けて連携することを発表しました。

この提携により、タイヤおよび自動車向けの統合型インテリジェントハードウェア&ソフトウェアの開発と普及を加速させていきます。



自動車向け磁気センサ、 受動部品の生産体制を強化



xEV（電気自動車、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車等の電動車）の世界的な普及に加え、ADASなどの多機能化が進み、引き続き拡大が予想される自動車市場に向けて、TDKでは、磁気センサ、受動部品の生産体制を強化しています。

浅間テクノ工場（長野県佐久市）では、高精度・高信頼性を誇る磁気センサの生産ラインを増強しました。また、北上工場（岩手県北上市）では、高信頼性MLCC（積層セラミックコンデンサ）の生産体制を強化するため、材料から完成品までの一貫生産が可能な新棟の建設が完了し、2024年4月から稼働を開始しております。

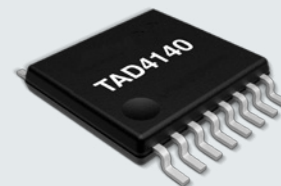
TDKは今後も顧客基盤やアプリケーションの拡大、新製品のタイムリーな投入を加速し、お客様の価値向上につながるよう努めていきます。

浅間テクノ工場（長野県佐久市）



TDKの磁気センサビジネスの中核工場として、TMRセンサをはじめ、センサ用ウェハの製造、パッケージ、モジュール製品を提供しています。

TMR*センサ



高精度・高信頼性の角度センサとして、電動化や自動運転技術の発展に伴い車載用の需要が高まっており、安全性と信頼性が求められる自動車システムにおいて欠かせない部品です。

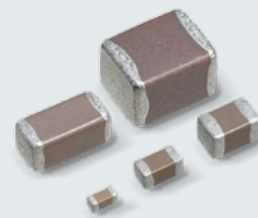
*TMR：Tunnel Magneto Resistance = トンネル磁気抵抗効果

北上工場（岩手県北上市）



秋田地区以外の生産工場として2001年に生産を開始。新棟では、省エネ・環境配慮に対応してモノづくりを行っています。

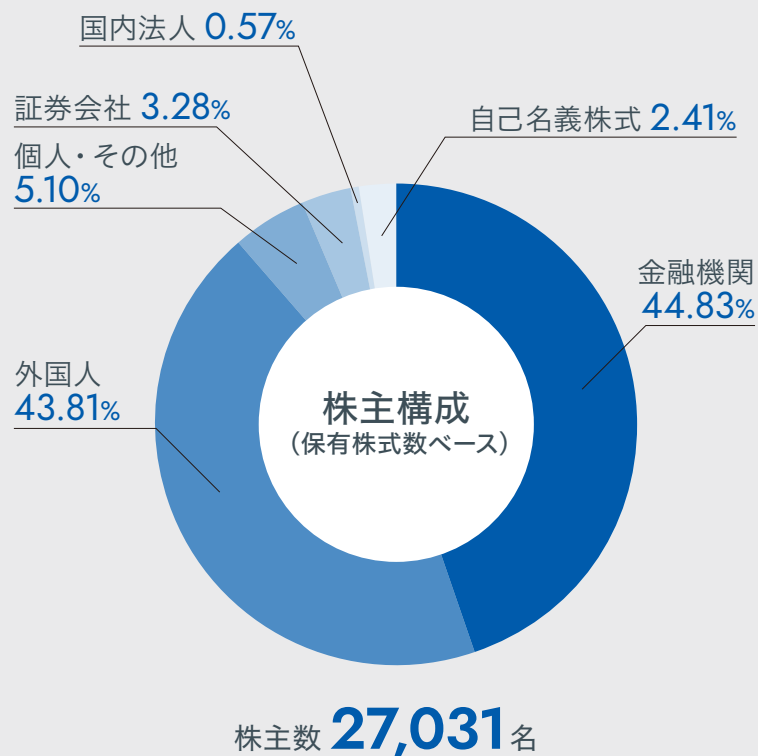
MLCC（積層セラミックコンデンサ）



電子機器でもっとも多用される小型チップ部品であり、電子回路のノイズ除去や電源電圧の平滑化に使用されています。自動車やスマートフォン、モバイルデバイス等の多機能化により、小型化・大容量化・高信頼性が求められています。

TDKについて - 1

株主の状況 (2024年3月31日現在)



大株主 (上位10名) (2024年3月31日現在)

	株主名	持株数(千株)	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	102,039	26.90%
2	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	52,147	13.74%
3	JP MORGAN CHASE BANK 385632	16,314	4.30%
4	STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	8,111	2.14%
5	SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	7,517	1.98%
6	HSBC HONGKONG-TREASURY SERVICES A/C ASIAN EQUITIES DERIVATIVES	6,855	1.81%
7	CITIBANK,N.A. -NY, AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY SHARE HOLDERS	5,607	1.48%
8	JP MORGAN CHASE BANK 385781	4,994	1.32%
9	GOVERNMENT OF NORWAY	4,090	1.08%
10	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	3,660	0.96%

- (注) 1. 持株比率は自己名義株式(9,380,867株)を控除して計算しています。
 2. 持株数、持株比率とも表示単位未満を四捨五入して表示しています。
 3. 自己名義株式は、上記大株主からは除外しています。

TDKについて - 2

役員の状況（2024年6月21日）

取締役（*印は社外取締役）

代表取締役	齋藤 昇
代表取締役	山西 哲司
取締役	佐藤 茂樹
取締役	中山 こずゑ*
取締役	岩井 睦雄*
取締役	山名 昌衛*
取締役	勝本 徹*（新任）

監査役（**印は社外監査役）

常勤監査役	石川 将
常勤監査役	桃塚 高和
監査役	Douglas K. Freeman** （ダグラス・K・フリーマン）
監査役	山本 千鶴子**
監査役	藤野 隆**

執行役員

社長執行役員CEO	齋藤 昇	執行役員	生嶋 太郎
副社長執行役員	山西 哲司	執行役員	橋山 秀一
常務執行役員	Michael Pocsatko （マイケル・ポチャッコ）	執行役員	Roshan Thapliya （ローシャン・タプリヤ）
常務執行役員	Andreas Keller （アンドレアス・ケラー）	執行役員	Ludger Trockel （ルドガー・トロッケル）
常務執行役員	佐藤 茂樹	執行役員	筒井 隆雄
執行役員	Albert Ong （アルバート・オン）	執行役員	福地 育雄
執行役員	指田 史雄	執行役員	Joe Kit Chu Lam （ジョー・キット・チュー・ラム）
執行役員	Ji Bin Geng （ジービン・ガン）	執行役員	Jim Tran （ジム・トラン）
執行役員	Werner Lohwasser （ヴェルナー・ローヴァッサー）	執行役員	高橋 毅

株主メモ

上場証券取引所	東京（証券コード：6762）
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当基準日	期末：毎年3月31日、中間：毎年9月30日
株主総会基準日	毎年3月31日 （そのほか臨時に必要なときはあらかじめ公告いたします）

定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告（当社のホームページ https://www.tdk.com/ja/index.html に掲載いたします）
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

株式に関するお手続きについて

お手続きの内容	お問い合わせ窓口
配当金の受取方法の指定・変更、 単元未満株式の買取・買増請求、 住所変更、名義変更等	・証券会社等にて当社株式をお持ちの株主様 ▶ お取引のある証券会社等へお問い合わせください。
	・特別口座にて当社株式をお持ちの株主様 ▶ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。
未払配当金の照会、支払い	・三井住友信託銀行株式会社 証券代行部へお問い合わせください。

お知らせコーナー

● 配当金の受取方法について：

配当金はお受取り忘れのない、安心、確実、スピーディーな、口座振込でのお受取りをお勧めします。

● 単元未満株式の買取・買増請求について：

単元未満株式の買取・買増請求に係る当社に対する手数料は無料となっておりますので、是非ご利用ください。（但し、特別口座の株主様を除き、証券会社等に対する手数料が別途必要となる場合がありますので、ご注意ください）

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 **0120-782-031**（フリーダイヤル）
（受付時間：9：00～17：00 ※土日休日を除く）

TDK株式会社

〒103-6128 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
<https://www.tdk.com/ja/index.html>